

北勢線の魅力を探る会



キラッと光る地域の魅力 再発見！

北勢線の魅力を探る会ブログ：<http://blog.canpan.info/hokuseisenn/>



三岐鉄道北勢線 沿線ガイド

阿下喜駅転車台(ターンテーブル)

構内に埋もれていた転車台は、昭和6年に阿下喜駅まで延伸して間もない時期に造られたもので、「CARNEGIE1914」の刻印がある。材木を積んだ貨車を隣接する製材所へ移動する際の方向転換に使われていたようです。直径3m前後のものが主流だったようですがこの転車台は約5mと大型です。

萬笑院

臨濟宗妙心寺派、本尊は阿弥陀如来。文明2年(1470)妙心寺第十世景川宗隆の孫、春江和尚の開基。一時、後継者が絶えたが、天正13年(1585)朝明郡保々村の大樹寺から文華和尚が来寺し、復興。文華和尚は、桑名城主本多忠勝の帰依もあつく、寺領18石を賜り、殿中杖を許された。

麻績塚古墳(久保院)

古代の豪族、麻績(おみ)氏の首長の墓とされる麻績塚古墳は大小2基からなり、一号墳は前方後方墳、二号墳は円墳である。久保院は、明治31年下笠田の和波久十郎が、夭折した子息の久保(ひさやす)を悼んで京都仁和寺の末寺として建立。本尊は岡山の善明寺にあったもの。境内に四国八十八カ所の石仏が安置されている。

脱線転覆事故現場

昭和32年11月25日朝の通勤通学ラッシュ時にカーブを曲がりきれず、下の田に転覆した。3人が亡くなっている。

山田川橋梁

大正5年に北勢鉄道が楚原～阿下喜東(後の六石)まで延長された際に作られた橋。

下笠田八幡神社

下笠田八幡神社は仁寿元(851)創建との伝承がある古社。祭神は八幡神である品陀和氣命(応神天皇)ですが、天照大御神(笠田御厨神明社の祭神)・菅原道真・建御名方神・大山祇神・火産靈神も合祀されている。拝殿前に並ぶ機雷と砲弾は昭和11年9月地元出身の海軍中将和波豊一が寄進。

めがね橋(明智川穹窿橋)

大正5年に北勢鉄道が楚原～阿下喜東(後の六石)まで延長された際に作られた橋。ねじり橋と共に平成21年「土木学会推奨土木遺産」に指定されている。コンクリートブロック製は珍しく、3連式のアーチが美しいこの橋は人気の撮影スポットである。

ねじり橋(六把野井水拱橋)

めがね橋と同じ大正5年に作られた橋。江戸時代に作られた「六把野井水」と40度の角度で交差しているため、ブロックはひねりを入れて積まれている。存在が確認されている現在唯一のコンクリートブロック製ねじりまんぼ(型枠整形が不揃い)で、土木史研究委員会編『日本の近代土木遺産－現存する重要な土木構造物2000選』でランクAの評価。

北大社車庫

西桑名駅から昭和52年5月にこの地に移転。現在も車庫の中で車両検査や月検査が行われている。

教願寺

真宗大谷派、本尊は阿弥陀如来。本堂は正面に向唐破風を付け、屋根に千鳥破風を据えた造りで、真宗本堂としては珍しい建物。太平洋戦争の供出を免れた天明6年(1786)銘の梵鐘は、三重郡河北村(現菰野町川北)の進士久右衛門が鐘楼と共に寄進したもの。

芳ヶ崎のクロガネモチ

この株は雄株で、多数の枝を四方に張り、見事な傘状をした名木で、天皇八幡社の御神木として大切に保存されている。昭和41年11月22日市の天然記念物指定。

馬道駅

一部改装されているが、昭和6年北勢線電化当初からの駅舎で、柱にレールが使われています。「CARNEGIE1913」という文字を確認できます。

善龍寺

浄土真宗本願寺派。元は法盛寺の寺中にあつたが、明治14(1881)年に移転してきた。

諸戸水道貯水池遺構

明治37年に竣工した近代的な水道の貯水池で、諸戸清六が独力で完成した。延長約14kmにおよぶ給水管で桑名町と赤須賀村の全部と益生村・大山田村の一部に配水され、街角に設置した共用栓と消火栓によって、住民に無償で提供された。大正13年当時の桑名町に寄贈、昭和4年まで使用。

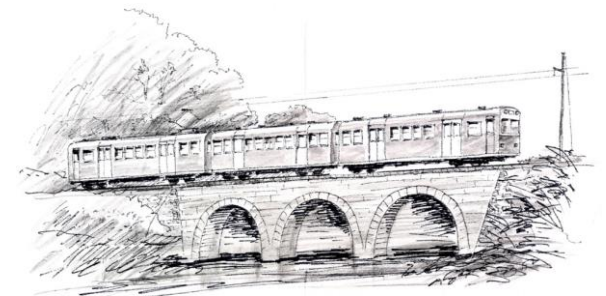
関西線跨線橋・近鉄名古屋線跨線橋

関西線跨線橋は北勢線開業前の大正2年ごろ建てられた。近鉄名古屋線跨線橋は伊勢電気鉄道(現在の近鉄名古屋線)が桑名～四日市間延伸時の昭和4年ごろ建てられた。

三崎踏切

線路幅が1,435mmの標準軌(近鉄)、1,067mmの狭軌(JR)、762mmの特殊狭軌(ナロゲージ・北勢線)と3つの異なる線路幅がそろっている日本で唯一の踏切です。

文責:北勢線の魅力を探る会



めがね橋